

第 4 回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成 12 年 12 月 21 日 19:00～21:00
市民活動サポートセンター
フレキシブルスペース

1 報告事項

次第に沿って報告を行った。

2 審議事項

のたろんフェア 2001 開催期間における利用制限について

- ・フェア開催中の通常利用はワーキングコーナー周辺のみとなることについて了承。

3 その他

- ・趣味の団体の会員募集等の掲示は、サポートセンターの趣旨から考えてどう対応すべきか、次回の運営委員会で諮る。
- ・次回運営委員会は、3月1日(木)。

[意見概要]

利用状況について

(庄司委員)

- ・オープン当初、利用者数の目標を設定していたか。月 2,000 人の利用でまだ空いている状況か。

(事務局)

- ・利用者数の目標は設定していないが、コピー機、印刷機は利用見込みを立てており、資料 2 のとおり、見込みを上回っている。
- ・利用はまだ余裕があり、月 5,000 人程度までの利用は十分可能である。

(今城委員)

- ・他の施設の利用者数を参考に、利用目標は設定した方が良い。

(水谷委員)

- ・利用者の立場からすれば、空いていていつでも使える状態になっていることは望ましいことである。

(江口委員)

- ・オープンスペースになっているので、混んでいると、他のグループの声が聞こえて利用しづらい。

(新井委員)

- ・趣味の団体でも何でも利用可とすれば利用率は上がるが、サポートセンターの趣旨にあった団体の利用を増やしていく必要がある。

(庄司委員)

- ・空いている曜日や時間帯を PR してはどうか。

(事務局)

- ・1周年記念展で展示した利用状況のグラフのパネルをしばらく展示しておくこととしたい。

1周年記念展について

(今城委員)

- ・メッセージ展の中に、「利用者用のパソコン故障の時にはスタッフ側のパソコンを提供すべき」と指摘があった。そのような対応も必要である。メッセージ展に寄せられた意見に対応していけば利用率は上がるはずである。

ロッカー・レターケースの更新について

(江口委員)

- ・ロッカー、レターケースの更新は、広報よこすかで知らせた方が効果的である。

(事務局)

- ・広報よこすか2月号に掲載するよう調整する。

その他（趣味の団体の掲示板利用について）

(事務局)

- ・サポートセンターはオープン当初から、生涯学習系の趣味的団体も社会貢献活動に発展する可能性があるとして、特に利用制限しないこととしてきた。
- ・現在、作成中の市民協働推進条例案の中で、市民公益活動の中に、趣味のサークル的な活動を含めないこととした。
- ・市民公益活動の支援というサポートセンターの目的から考えると、掲示板にある野球チームや料理サークルなど、趣味の団体の会員募集の掲示は、ある程度制限すべきと考えるが、運営委員のご意見をお聞きしたい。

(飯島委員)

- ・生涯学習センターが基本的に有料であることを考えても、サポートセンターでは生涯学習活動と市民公益活動は一線を画すべきである。

(水谷委員)

- ・公益性を重視しないと、サポートセンターの目的があいまいになる。

(新井委員)

- ・活動が、団体の自己満足に終わるのではなく、他への働きかけとなっているかどうかである。条例案で趣味的活動を市民公益活動に含めないとしたのは、この観点からであると考える。

(庄司委員)

- ・他の施設への不満は良く聞くが、サポートセンターは評判が良い。スペースが許すなら、なるべく門戸を広げた方が良い。趣味の会員募集でも掲示できるスペースを少し作って、そこに限定して掲示するようにしてはどうか。スペース的に問題があれば、フォームや大きさをあらかじめ決めておいても良い。

(飯島委員)

- ・掲示板だけでなく、他の利用についても問題になり得る。県では印刷機を使う時に原稿チェックをして、趣味の会員募集の場合には断っている。

(岩崎委員)

- ・災害時の協力など公益的な活動への発展の可能性を考えると、趣味の団体がサポートセンターを利用することは可能としたいが、大々的に掲示を出すのは問題である。少しのスペースを提供し、分けて掲示してもらうことに賛成である。

(今城委員)

- ・古い情報をいつまでも掲示しておくのは良くないので定期的に整理すべきだが、情報を集める側からすれば、いろいろな情報があった方がよい。

(新井委員)

- ・サポートセンターの掲示板は、銀行やスーパーの掲示板とは違う。他の市民公益活動の掲示を見て、趣味の会員募集などはふさわしくないと自分で判断し他を探すなど、自然淘汰されれば一番良い。

(事務局)

- ・自然淘汰は理想であるが、サポートセンターの運営を考えて他団体に意見する利用者はなく、結局、運営側がルールを示さないと何も変わらないのが実情である。

(岡本委員)

- ・生涯学習ボランティアの間で、「サポートセンターは私たちの活動には使えない」との声がある。私自身の活動も市民公益活動かどうかといわれてもよくわからない。生涯学習活動は市民公益活動でないかもしれないが、発展する可能性はある。情報交換、会員募集ぐらいまでは緩やかにし認めたい。

(田口委員)

- ・ニーズを受け止めていくことも大切である。自分たちの活動を、生涯学習だとか市民公益活動だとか区別している団体は少なく、社会を変えていくかどうかと最初から言われても困る団体が多い。サポートセンター以外に、自由に発表できる場、表現できる場がもっとあると良い。庄司委員の意見が妥当ではないか。

(事務局)

- ・今日の意見を踏まえて対応を考え、次回の運営委員会に諮りたい。
- ・運営委員の任期が3月で満了となるので、平成13年度の運営委員会についても次回の議題としたい。